

第1号様式(第7条関係)

平成28年4月1日

稲城市議会議長
原島 茂 殿

会派名 第三新政会

経理責任者 原島 茂 印

稲城市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、別紙のとおり平成27年度政務活動費収支報告書を提出します。

第2号様式(第7条関係)

平成27年度政務活動費収支報告書

会派名 第三新政会

1 収入
政務活動費 250,000円

2 支出

(単位 円)

科 目	金 額	主たる支出の内訳
研究研修費		
1 調査費	93,346	大島町・加賀市・野付町・白峰町
資料作成費		
2 資料購入費	1,500	図書費
広報費		
広聴費		
3 通信費	25,000	
事務費		
その他の経費		
合 計	119,846	

3 残額 130,154 円



出 張 先 報 告 書

出 張 期 日	8/18 8/19
出 張 先	大 島 町
研 究 研 修 ・ 調 査 課 題 等	伊 豆 大 島 台 同 26 号 災 害 地 視 察 及 災 害 復 旧 ・ 復 興
終 了 報 告	別 紙
参 加 者 氏 名	三 新 政 会 原 島 茂

稻 城 市 議 会 議 長
原 島 茂 殿

上 記 の と お り 、 会 派 出 張 を 終 了 し ま し た の で 報 告 し ま す 。

平 成 27 年 9 月 1 日

会 派 名 三 新 政 会

代 表 者 氏 名 原 島 茂



視 察 報 告

第3新政会 原島 茂

防災対策とその後の復興

8月18日から19日

東京都大島町

まずは、大島に台風の影響を受けた前線が停滞し、調布からの飛行機が「着陸できない時は、引き返すこと」を条件に発着しました。

現地は、小雨状況で無事に着陸でき先ずは一安心の思いでした。

本題に入りますが、防災担当者からは1986年、昭和61年の三原山の噴火に際しては一職員として携わり、全島民の避難を行った中で噴火災害の対策は進んでいましたが、土砂災害については、火山岩、火山灰など浸透性が大きく想定外の事であったとお話しされ、忌憚のない説明をしていただいたと思っています。

平成25年10月15日から16日、台風26号の接近で16日の早朝2時から3時には時間雨量122ミリ、24時間雨量8240ミリ想定外の雨量で土砂災害が発生しました、深夜、根元から倒木した、樹木の流出がさらに被害を拡大したともお聞きしました。

復興につきましては、現在仮設住宅に34世帯が生活していて、町

営住宅を 12 棟建設中とのことでした。

被災場所の土地からの状況では、300 や 500 坪など大きな土地の中で生活してきた方々とも感じます、被災者住宅が有効に利用されますことを願っています。

また、同時に全島的なハザードマップも作成され、今後は避難警戒、避難指示などが防災行政無線、および全世帯への個別受信機により発令されると考えています。

また、砂防ダムの改修を始め、崩落斜面の緑地化なども同時進行で進められています。現在でも、行方不明者の 3 名については、海に捜査が続行されているとの事です。

説明の後、その現場を案内していただきました、まさしく「大島ジオパーク」のごとく、溶岩層の上に何十もの火山岩や火山灰が堆積し、層を作っている景色は火山島としての何千年の歴史の中で形成された地層の年輪を感じるものでした。

余談ですが、伊豆七島の中で、人口の多い島は大島との考えでしたが、最近八丈島に変わったそうです。

大島の生活基盤は、観光、農業、水産が大きなウエートを占めているとのことで、「大島ジオパーク」構想など、民宿も多く島民の雇用

の場にもなっていると考えます。

2日目の朝、私は早起きなので、外来生物の「キョン」を始め、5時30分ごろ100メートル先の森が騒がしくなり、木からグラウンド上に動物が次々と降りてきて、あまりにももの大きいので同室で寝ていた仲間も起こし、野生化した「台湾ざる」を見ることができましたこの感動は忘れません。

また、観光客は子ども連れの家族も多く、広大な未利用地を活用した体験学習の場づくりや、外来種を逆手に取った「大島サファリパーク」構想も提案いたします。

大島町の議長さんを始め、防災担当者、事務局職員の皆様には大変お世話になりました。

議長	副議長	学務部長	次長	総務部長	議員	議員
備考						

会派出張終了報告書

出張期日	3/29 3/30 3/31
出張先	加賀市・射水市・白山市
研究研修・ 調査課題等	国際交流・射水市工芸フェア
終了報告	別紙
参加者 氏名	十三新政会 原島 茂

稲城市議会議長

原島 茂 殿

上記のとおり、会派出張を終了しましたので報告します。

平成 28年 3月31日

会派名 十三新政会

代表者氏名 原島 茂



視察報告

加賀市・射水市・白山市

3月29日・30・31日

国際交流

まずは加賀市、観光客数 190 万人、外国人観光客 52000 人のうち 7 割が台湾からの観光客、台湾の中の台南市・高雄市・高雄市鼓山区・桃園市（予定）など明確な経済効果を期待しての交流ともいえる。石川県全体が、工業誘致には積極的で加賀市も例外ではない、また、片山津・山城・山中の温泉地が有名であり、質疑の中で一日 1 万人ぐらいの宿泊が可能とのことである。また、市長のトップセールスもあり、シンガポールとの友好も模索しているようです。

次に、射水市ですが、市内外国人登録が 1888 人と全人口の 2 パーセントと高く、国際交流との側面より多文化共生事業に視点を置いているようです。富山新港がありロシアとの貿易も盛んで、中古車販売をパキスタン関係の人、その他中国、フィリピン・日系ブラジル人、留学生などが多いとの話でした。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを考えたとき、多言語の行政サービスや相談体制、す

すべての市民が、文化や価値観の違いを認め、尊重して暮らしを推進するためには、国際交流の在り方ともかんがえられる。

次に、白山市の国際交流についてだが、平成17年旧松任市が当時7万人の人口があり核となった(石川郡2町5村)合併であり20年以上の歴史ある国際交流もその継承と考える。また、白山市の誕生については、市民の投票により、白山の山の名前が市の名称となった。

また、30年前のサッカー交流として姉妹都市の静岡県藤枝市との交流の中から、オーストラリアのペンリス市と縁があったとも聞く、英国ボストン町、中国瀋陽市などとも青少年ホームステイ交流を進めている。

派遣と受け入れがセットのエクステンジ交流がおこなわれており、派遣費用は二分の一補助としている。

このことは、派遣した子供の家は原則受け入れ体制が必要である。

また、費用も二分の一の補助と考えると、国際交流協会等の受託事業と考えると民間機関への育成が大切と考えた。

射水市のコミュニティバス

本市も平成17年の合併旧新湊市、旧小杉町、旧大門町、旧大島村、旧下村など合併から分庁舎方式をとっていて、面積109.43K平方メートルであり、18路線が運行している、

平成23年からはある地域ではデマンドタクシーを運行している、高齢化率も28.5%と高い、

バス停370か所、バス車両29台、運航経費は2億3000万から1億8600万の上下していて、利用者数は21路線は43万4000人、その後現在の18路線となり38万1000人が現在

特記すべきは、27年6月から通勤通学のの利便性向上から「モーニング快速便」を「富山県立大学」と連携して社会実験をしていることです。

27年度視察表

	人口	面積	合併	議員	報酬	政務月	一般会計	市税
加賀市	69837 28779	306	平成17	20	430000	80000	302	89
射水市	94404 33764	109	平成17	22	427000	50000	406	129
白山市	112561 41314	754.93	平成17年	21	500000	60000	499億	161億

地方交付税

加賀市	72
射水市	91
白山市	117億

友好都市・姉妹都市

高雄市・台南市

なし
国際交流協会

ロンドン・ペンリス・中国瀋陽市
国際交流協会